



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

第11回森林塾報告 テーマ「きのこ狩り」 『暖かくて少雨、きのこは?』

市場見学と入れ替えて、二週間遅らせてのきのこ狩りでした。でもやはり相変わらず暖かい日が続き、雨が少なかった。秋のきのこは層間は多

少気温が高くて良いが、最低気温が八度から十度であることが良くできる条件だそうで、あとそこそこの雨量も必要です。「まだ東京ではクーラーを使っているよ」とは河



一面トップを飾る浜田(久)さんの大物コウタケと松下さんのかわいいカラカサタケ

原さんの話。もう一段気温が下がればベターだったかなという感じです。

雨が少ないことも、運動会や秋祭りなど、行事をするには大歓迎ですがきのこにはちよつと困る。この時期、雨が降るとそわそわし、目を血走らせて山に入る人達は少し不完全燃焼の状態です。

もう恒例になりました、箕輪町長岡区の区有林をお借りしてのきのこ狩りでした。あまり成果は期待できなかったのですが、それでも昨年に比べれば少し多かったかなと言った状態で、浜田(久)さん



出発前、島崎先生が用意してくれたサンプルで予習



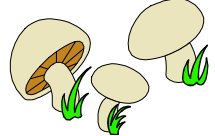
入したイノブタの脂身のだしも良くて、これがきのこの汁には必須のナスに良く合(ナスは毒きのこの毒を消すと言われている迷信がある)舌鼓を打ちました。



趣味と実益を兼ねてセミプロ金森さん久々の参加

初め、まあまあのコウタケが採れましたし、その他アマタケ、ヌメリイクチ、ハナイクチ、シウゲンジ、ヌメリサタケ、ニセアブラシメジ等、量は多くはありませんでしたが採ることができました。これらは事前に採取してきた栽培ナメコと合わせ、きのこ汁の具となりました。産直市場グリーンファームで購

入したイノブタの脂身のだしも良くて、これがきのこの汁には必須のナスに良く合(ナスは毒きのこの毒を消すと言われている迷信がある)舌鼓を打ちました。



見事なコウタケ。知らないといこんな形のきのこには手を出しにくい。

今回の内容 第11回 10月14日(土) きのこ狩り

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。あいさつの後、車に分乗して箕輪ダム集水域の長岡区有林へ。

10時 現地着。車を降りて歩いた瘦尾の作業道は島崎先生の設計により、区の人達が自力で作ったものです。また一昨年の森林塾植林でミスナラを植えさせていただいた所でもあります。コナラ中心の広葉樹林、アカマツに広葉樹の混じる林、カラマツ林と、変化に富む林相が見られる場所で、グループに分かれ思い思いの方向に散っていきまし

た。

12時 集合 昼食 食前食後



正しいきのこ狩りは山口(み)さんのように竹ビクで。



八百屋さんの店頭のようにザルに盛って池田さんのお土産完成!

はきのこの見分け方教室となりまして。何千種もあると言われる日本のきのこ、そのほとんどが毒はないが食べるに値しない、まずい、臭いなどというきのこです。それならなんの役に立つんだ、なんのために顔を出すんだというのは人間の勝手。生態系の重要な一員です。今回採れた毒きのこは図鑑でも見て復習して覚えて下さい。クサウラベ

ニタケ(最近のきのこ中毒のチャンピオン)、カキシメジ(拍子が良くていかにも食べられそう)。この二種にイッポンシメジ、ツキヨタケを加えると中毒ベスト4です。ほかに猛毒のニガクリタケ(だめですよ森さん、こんなもの採って来ちゃ)がありました。

1時 山口さんに頂いたきのこをわけ、山を下る。作業道を下りる組と、まだきのこ狩りに未練がある組は湖岸道路に通じる歩道を下る。(この歩道、途中で何処にあるか分からなくなっていて苦労しました) 1時40分 現地発ミルク裏の森林塾ほだ場にむかう。 2時30分 森林塾ほだ場のナメコは何者かに採り尽くされていて影も形もありません。猿か? いや猿はもつと採り散らかしていく。頭の黒い猿か?



なかなかイケル。大鍋いっぱいきのこの汁。イントラ中村、藤原作



KOA(株)の前庭に出現したきのこ『オニフスベ』。バレーボールくらいの大きさ。若いうちは食べられるらしい。



縄文さんのようにナタで梨がむければ免許皆伝

3時 ちよつと残念、解散 参加者/池田さん、稲垣(久)さん、宇津さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、片岡さん夫妻、坂田さん、鈴木さん夫妻、田中さん、中村さん、芳賀さん、松下さん、皆川さん、森さん、横井さん、小川さん、奥田さん、奥本さん、金子さん、河原さん、藤本さん、村谷さん、山口さん、大竹さん、金森さん、浜田(久)さん、前田さん 講師/保科先生、鳥崎先生 スタッフ/中村、藤原、坪木 早川



最初はグズっていたが、観念して早川オジさんに抱かれて歩道を下る鈴木潤社(あきと)くん 2歳半!

次回以降の予定 Bコース秋の部 10月27日(金)~29日(日) 森林調査、問伐に加え今回はドラムカン窯による炭焼きを予定しています。ナタ、ノコ、ヘルメットあれば持参下さい。 第12回 11月11日(土) (日にち変更となりました) お間違えなく) 枝打ち、刃物の手入れ 8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。端末加工をした麻縄で「ぶり縄」を作ります。これで木登りをして枝打ちをしてみましよう。ヘルメット、ナタ、ノコお持ちの方は持参下さい。ナタやノコを研いで(目立てをして)見ます。 切れない包丁、ナイフ等あればこれも持参のこと。 第13回 11月18日(土) 復習の回とします。測量と伐木造材を復習したいと考えていますが、ほかにご希望あれば事務局まで。 第14回 12月2日(土) 炭焼き ドラムカン窯等で炭を焼いてみましょう。 続いて忘年会(もうそんな時期なんですかね)をやりますか?



今、私の毎日は新しい経験との出会いです。私は営林局に入ってから三十数年間は事務一筋の仕事をしていました。国有林という現場を持つた職場に勤めているのにも関わらず、現場のことは殆ど知らない状態でした。職場の男性の多くは現場を経験しています。女性の多くは現場経験がありません。現場を知らない私は、山での仕事のイメージが掴めないことが多く(百聞は一見にしかず)、従って仕事の理解度が遅く、ここ数年いらだちを感じる事が多くなっていました。あと数年で退職を迎えるという年齢になって、「せっかく営林局に入ったのだから現場を知りたい」と現場勤務を希望しました。現場を知らず、森林官という仕事も理解していなかったのですから、今から思うと無謀というほかありません。私が現場にできることについては、女性には結構応援してくれましたが、数人の男性から強く反対されました。「係

リレー通信
現場での六ヶ月
坂田 頼子



長になつたんだから今更現場に出なくても良いではないか。周りに迷惑かけるだけだ」と。(係長になるには先ず、森林官になり現場を経験することが義務付けられていたのですが、ここ数年特例任用という制度ができ、退職前の数年現場に出なくても係長になれるようになりました)今思えばそのとおりだったのかも知れません。その時の私はひどく落ち込みました。他人に迷惑をかけるのは、私の本意ではありませんから。若い人には「現場に出る、現場に出る」というのに、何で私には駄目だというのだろうか、年寄りだから?知識がないから?と思ひ悩んでいた時に偶然テレビで見た、「山のドクター」と仲間たち、「これだ!!」と目の前が明るくなりまし

た。私にしては珍しく、即行動となりました。島崎先生に「私年寄りなんですけど、大丈夫でしょうか?」と思わず言ってしまった。先生の回答は「気が付いた人から、どんどんやっていかなければ手遅れになってしまいます」でした。うれしかったです。迷惑だなんて言われなかった!!

森林官の仕事は管轄する国有林野の管理から、産物の収穫調査、造林事業の実行等々、その上事務所の責任者でもある訳ですから、確かに大変で、身の程知らずもいとこでした。反対された理由も分かったような気がしました。一ヶ月目は真つ暗闇でした。何で私はこんな所にいるのだらう。今更戻してくれないで言えないし、そんな思いでした。森林塾の皆様との出会いもその時はまだ始まっていま

せんでしたし。友人に「励まして」と頼むと「人間新しい環境に入ると、先ずは三ヶ月、六ヶ月目、そして一年目、そんな時が壁にぶちあたると、乗り越えなければならぬんだよ。誰でも経験してきているんだよ」と突き放され(?)ました。単純な私は「ああそうか、みんなも経験してきたことなのか。先ずは三ヶ月頑張りなう」と暗示にかかりました。必死に基職の人の後について山を歩いていました。今は、この六ヶ月目が終わろうとして

います。この間毎日の経験は、吸取紙がインクを吸い取るように体の中に入っていきよつでした。ボンヤリ人間の私も、いろいろな組織が目覚め、少し活性化してきたようです。「国有林の山は荒れている」「山に人手と金を」とはこう言うことだったのか、と身をもつて感じています。除伐もつる切りも予定に組んでいても予算がないからできない。森林の中は光が入らず、下層植生もないという森林が多いのです。皆伐後予算がつかず、三年も経つてからヒノキを植え付けした所は、下草の勢いが強く、一度刈つた後もすぐに下草で覆われてしま

い、二度刈りの予算はつかずヒノキが駄目になつちやうよと気をもみました。(署の上司の奮闘努力でなんとか切り抜けることができました。ヨカツタ。ヨカツタ)森林塾の皆様は森林造りへの取り組み方と違って、国有林の場合には、組まれた予算の範囲内で山の手入れ等が進められています。独立採算制度でやってきた国有林野事業は、外材の輸入や燃料革命等で木材が使われなくなつたり等々、赤字財政となりました。累積債務は三兆八千億円となり、そのうち二兆八千億円を一般会計から返済してもらつたといふこと

で国有林野事業の抜本改革が義務づけられ、組織の統廃合、職員数の激減、仕事の内容も管理的用務中心になり、山の造林は請負でやることになりました。「請負」にするといつても、予定したところすべてに予算がつくわけではありませぬ。山の手入れをしてきた基幹作業職員は管理的用務になり、山の手入れはしなくなり、国有林はますます荒れてしまつたのではないかと心配です。

今現場に出て良かったなどと感じています。倉淵森林事務所管轄面積約三千六百五十ha、九十五林班の森林の様子や境界が分かるようになるだらうかと考えるととても不安にもなりますが、「習つより慣れろ」で山を歩いています。一回目より二回目、二回目より三回目と回を重ねるとに山や林道の様子が分かつてくるようです。基職の人も「坂田さん、こんなことは営林局の中にいたんで一生分からなかつたよな」なんて言つてくれます。

この六ヶ月間の私を支えてくれたのは森林塾の存在です。森林塾での島崎先生、保科先生、そして個性豊かでユニークな生き方をしている皆様とのふれあい、とても私を勇気づけてくれます。この出会いがなかったら、きっと私はやっていけなかつただらうなと思ひます。今までの授業の中から、ごく自然に森林の見方等も分かるように(?)なつてきた気がします。森林塾に行きたい一心で高速道路での運転も出来るようになりました。

集中力の足りない私は、島崎先生の熱心なお話によってケーツとしていふことがあるのですが、伐木造材の授業の時、自分から切りたいと手を上げたのに、いざ切る段になると自身がなく、ちよつと怯んでしまつた時、すかさず島崎先生が「良い材になるように、切ることに努力するのだよ」と言われました。その一言でお腹に力が入り、集中しました。その結果「ヤッター!!」で、私にもできたと思ひ上がりました。「坂田さん、国有林は木を扱っている職場なのに、なんで暖房は石油ストーブなの」なんて国有林野行政を皮肉りながら声をかけて下さつた保科先生。最初はドキドキ、ビクビクだったんですよ。思いもかけなかつた問題の投げかけは、考えるきっかけとなりました。

保科先生が「女性だからといって、細い木を切つていたのでは駄目だよ。苦労して太い木を切り、その手応えを感じる事が大切だよ」と言われたことも、現在の自分と合わせ、とても納得しました。いつもニコニコとやさしい早川

リレー通信

今、思っていること
岡田 雅人



山を眺めるのが好きです。山のある風景の中をブラブラと歩くことが好きです。でも、言ってみればただそれだけなのを、いつも物足りなく思つていました。登山や釣りをするわけではありません。キャンプの達人というわけでもありません。木や草花の名前などももちろん知りませんし、ましてや、世界を放浪した経験もなければ、ログハウスを建てられる、なんて特技があるわけではさらさらありません。ただ単に、山の眺めに感動し、自己満足して帰ってくる。それがぼくにとつての「自然」との付き合い方でした。森林塾に通うようになった

さんも大好きです。冬は通えるかなと心配ですが、先のことは先に置き、目の前の一回一回をクリアしていこう。皆様、改めてよろしくお願ひします。



のは、そこから一歩踏み出した
たい、と思ったからです。
(も)と本当のことを言えば、
更なる『野望』もあるのです
が、ここではふせておきま
す。フッフッフ・・・
いわゆる「森」関係の本を
読むのは好きだったので、日
本の森林の現状については、
知識としては知っていました
。自分でも、何かしたいとい
も思っていました。そうした
中でまず、「木を切れるよう
になりた」という思いが次
第に強くなっていったので
す。そうなることによって、
「自然」との付き合い方も深
めることができるんじゃない
か、と考えるようになったこ
とが森林塾に参加した一番の
動機です。(島崎、保科両先生
及びスタッフの方々へ、こ
んなちっぽけな動機でスミマ
セン)

いう間の感じがします。
実際に木を切らせてもらいま
した。木の名前も、少しずつ
ですが覚えられるようになって
きました。そうしたことに一
つ一つに、単純に喜びを感じ
ています。でも、やはり何よ
りうれしいのは、一緒に参加
しているみなさんとお会いで
きることにあります。
いろいろな人がいます。い
ろいろな考えがあります。そ
れぞれの、森や自然に対する
想い、夢、経験談、仕事や生
活のことなどなど、それらの
話の中にはいつもなにかしら
新鮮な刺激が満ちています。
それがとても楽しい。こんな
にいろいろな人と共有できる
時間が持てるのがとてもう
れしい。そう思います。自然
と付き合いと、人と付き
合うことは実はつながってい
るんだ、と、最近では思うよ
うになりました。

先、シラカバが三本並んで
たっているのが見えました。
時間は午後三時。秋の日差
しは逆光となり、まぶしくあ
たりを照らしています。ハケ
岳はすでに、その逆光の中で
巨大なシルエツトになってい
ます。それとは対照的に、そ
のシラカバたちは午後の日差
しをいっぱい浴びて、浮か
び上がっていたのです。
やや色づき始めた梢の葉た
ち。黄葉、とまではいかない
状態の葉たちは、その午後の
光線によって見事に色づき、
黄金色に輝いていました。
時折り風が吹き、梢を揺ら
します。金色の葉っぱたちも
優雅に揺れます。
キラキラキラキラ
それはさながらダンスのよ
うに、光と風と葉っぱが一緒
に踊っているかのようだし
た。

「ああ、これだこれだ」
この感覚が感じたくてはく
は山に会いに行きます。この
感覚が好きなのでほくは森へ
歩きにいけます。そして、い
つも元気の素をもらって帰っ
てきます。
今まではそれで満足でし
た。でも今は違います。何か
お返しをしたい。お返しでき
るような技量を身に付けた
い。そう思っています。
最後になりますが、今、自
分が関心を持っているテーマ
が2つあります。それは、「薪
ストーブ」と「環境教育(イン
タープリテーション)」です。
どなたかこれらの方面に明る
い方、興味をお持ちの方がい
ましたら、ぜひ！お声をかけ
てください。よろしくおねが
いします。

られるか？あれはどうか？と
質問を浴びせ、地元ではジゴ
ボウと呼ぶきのこを初め、子
供そつちのけで収穫に燃えま
した。オジサンはこの親子が
気に入ったのか、頂上で自分
の収穫袋を全部彼女にブレゼ
ント！更に下りでも彼女は順
調に収穫、結構な量のお土産
ができました。彼女が住んで
いるのはオーストラリアでも
スキーのできる山の近くで、
こうした "bush walk" は日
常茶飯事なのですが、そこに
はきのこやあけびはないそう
で、「これだから日本の秋の
山はいいよねえ」という彼
女。日本の山の豊かさを改め
て感じる一日でした。(ちな
みに、じゃあオーストラリア
で食べられるきのこは栽培
「マッシュルーム」だけ？と
尋ねると、あれは牧場で牛の
糞にたくさん生えるらしいと
言っていました。うーん、あ
まり食べたくないなあ)
(OLIVE三輪)

が、どれも本場風でじゅっく
り煮込んであります。デザー
トもいけますよ。月曜休。11
時、17時、20時半。国道303
号線赤穂小学校前から小町屋
駅を過ぎた後、わかりにくい
所なので、じよんのびまで。
(OLIVE三輪)

おわりに
全国の注目を集めた(単に
週刊誌のネタづくりをしただ
けか)長野県知事選も終わ
り、遅れてきた青年の田中康
夫さんが知事になってしま
いました。副知事 知事とい
構図が四十年も続いていたの
で久しぶりの民間出身知事
です。「長野県を変えよう」と
いうキャッチフレーズでした
が、さあみんなで「長野県
の森林を変えよう」森林にも
もっと活力を注いでもらいた
いものです。
さて11月12日(日)はKO
A(株)の収穫祭があります。
縄文さんに火起こしを上演し
てもらう予定です。無料屋台
は12時頃から。ご用とお急ぎ
でない方はどうぞ。

さて、その森林塾も早いも
ので、もう半年が過ぎようと
しています。なんだかアツと

ここで突然ですが、つい先
日、野辺山(長野県南佐久郡
南牧村)をブラブ
ラしていた時の話
を書きます。ここ
から眺める八ヶ岳
が好きでよく出か
けるのですが、そ
の日もいつものお
気に入りの道を歩
いていた時のこと
です。
高原野菜畑の向こ
う、ある民家の軒

しばらくは「きれいだ
なあ」と、ただぼんやり見
ていたのですが、ふと、気
持ちの中に何かごみあげて
きました。うまく表現できな
いのですが、なんだか急に気
持ちが高ぶってきて、なぜだ
か、ドキドキ、ワクワクして
しまうような感覚にとらわれ
てしまったのです。例えて言
えば、なにかとても素晴らしい
事を見つけた時に、思わず
手を打ち鳴らし、歌い叫びな
がら走り出したくなる衝動が
湧き上がってくるような感覚

先日オーストラリアから里
帰りした友人親子と秋の守谷
山を歩いた折のこと。友人が
あけびを見つけてはもいで子
供たちと分け合いつつ、きの
こも採りたがってうずうずし
ていると、ちょうど地元のき
のこ採りのオジサンと遭遇。
友人はオジサンにこれは食べ

コラム
海外協力隊でパンケラデ
シュに行っていた小笠原さん
が、現地の料理を覚えて帰っ
て始めたとか。食事はカ
レー、ナン、ラッシー、サラ
ダ、チャイなどのセットで、
昼は千円、夜は二千五百円か
ら。喫茶だけでも。私のイ
チオシカレーはチキンです

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P. http://www.koanet.co.jp

